ひとりにしない支え合うまち

立川・生活者ネットレポート

NO. 81
2026年10月15日

市議会議員　あべ　みさ
HP　Mail
〒190-0004 立川市柏町 4-6-21　☎042-535-9110　FAX042-535-9116　発行：立川・生活者ネットワーク　発行責任者：坂下かすみ

― 子育て家庭意識調査 ―

子育てに必要な支援は、なに？

調査フォーム

調査の目的

無償化や給付などの経済的支援や、預かり支援の拡充など、「子育ての負担軽減」施策が進む社会で、子育て家庭の悩みや不安、心配、望むこと等の実態調査を行います。

調査対象

０歳から　１８歳以下の子どもがいる家庭。

調査結果

１０月以降集計結果をまとめ、東京・生活者ネットワークの政策に活かします。

コラム　身近な防災対策　もしものとき・・・

被災後に避難する際は、ブレーカーを切りましょう！

大規模地震時における火災（出火原因が確認されたもの）の原因は阪神・淡路大震災（1995 年）では、６１％が電気関係でした。東日本大震災（2011 年）でも、６５％が電気関係と言われています。

「避難時にはブレーカーを切る」を地域で共有しておきましょう。**また、火事による二次災害を起こさないために、「＊感震ブレーカー」を設置できれば安心です。**

＊感震ブレーカーは、地震による電気火災を防ぐために電気を自動で遮断する機器のことです。

敗戦の日の８月１５日、**「市民のひろば・憲法の会」**が主催した**『心に刻む不戦のつどい』**2026 年夏にスタッフとして参加させていただきました。**講談師：神田香織さんの立体講談「はだしのゲン」**

７月 26 日、「暑さ対策プロジェクト　学習会**「地球沸騰化を生き抜く『いい日陰』の見つけ方」**に参加しました。
主催　東大和生活者ネットワーク

ゲノム編集食品はいらない！

地域から発信しよう
―消費者の知る権利を求めて―

2026 年 3 月 14 日、立川市女性総合センター・アイムホールで、講演会「食と農の未来を考えよう」が開かれました。講師は印鑰智哉（いんやくともや）さん（OK シードプロジェクト事務局長）。ゲノム編集食品を始めとする食の最新事情から食の課題について学びました。

■知らずに口にしているかもしれないゲノム編集食品

日本では、すでにゲノム編集食品が流通しており、消費者がそれと知らずに口にする可能性があります。問題は、本当に安全だと言い切れるのかという点です。現時点では、**長期にわたって食べ続けた場合の健康への影響について、十分な知見が蓄積されているとは言えない**――印鑰さんは、この点を強く問いかけていました。

国はゲノム編集を「外来遺伝子が最終的に残らないもの」として、遺伝子組み換えとは異なる扱いをしています。しかし、**どちらも人為的に遺伝子に手を加える技術です。**遺伝子は、一つが一つの働きだけを担っているとは限りません。一つの遺伝子が複数の機能に関わっていることもあります。そのため、特定の性質を変える目的で遺伝子を操作しても、狙った変化だけが起こるとは限らず、別の機能や生態系全体のバランスに予想外の影響を及ぼす可能性があるというのです。

何を選んで食べるかは、私たち一人ひとりの大切な権利です。その権利を保障するためには、ゲノム編集食品の表示の義務づけが必要です。

市民団体が国に対して、ゲノム編集食品の表示を求める署名活動の準備をしています。食の安全と自己決定を守るため、生活者ネットワークは市民とともにゲノム編集などの表示義務づけを求めていきます。

■ゲノム編集技術応用食品には２種類あります

- **遺伝子を操作して他の生物の遺伝子を挿入するもの**　例：除草剤耐性大豆
- **遺伝子の特定の部位を壊して、その部分の機能をなくすもの**　例：可食部増量マダイ

＊立川・ネット HP をご覧ください。